

3月6日（金）、春の訪れを感じさせるような晴天となりました。この日予定していた第52回卒業式は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、卒業生と教職員だけで、時間短縮を図った上での実施となりました。毎年、多くの保護者、来賓の方々をお迎えし、在校生とともに、卒業生の門出を祝ってきただけに、残念でなりません。出席が叶わなかった方々の思いも込めて、卒業生にお祝いの言葉を述べさせていただきました。



卒業生におくることば（校長あいさつ）

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

皆さんが、光陵高校で過ごした3年間、思い起してみてください。皆さんはここで、何を学びましたか、何に感動しましたか、どんなことに驚き、何に夢中になったのでしょうか。何に泣き、何に笑ったのでしょうか。皆さんが周りの人に支えられながら、自分の力を信じ、一生懸命取り組んできたこと、これらはすべて皆さんの力となり、自信となり、生涯にわたって皆さんを支えてくれることでしょう。高校時代に育んだ友情は、一生の宝物となるでしょう。

さて、皆さんよく知っているとおり、光陵高校は、「心やさしき社会のリーダー」を育てたいと考えています。そして、「心やさしき社会のリーダー」には、次の3つのことが必要だと考えています。

1つめは、理念をもつことです。私は、何をしたいのか、社会とどう関わって、どんな貢献をしたいのか。自分だけが豊かになっても、それは真の幸せではありません。自分たちが存在するこの社会をどんな社会にしたいのか、それに対して自分は何ができるのか。

もちろん、ただこうしたい、ああしたい、こうなったらいいと理想を唱えているだけではだめで、それを実現するための具体的な行動が必要です。まだ、よくわからないという人もいるかもしれません。これは、一人ひとりの生き方にも関わります。自分は一体、何者なのか、という根源的な問いでもあります。理念を持つこと、これは、生涯をかけて追究していくことかもしれません。

「心やさしき社会のリーダー」に必要なこと、2つめは、学び続けることです。変化の激しい時代にあって、コンピュータやロボットと共存しながら生きていくためには、新しい技術や分野と積極的に関わり、AI やコンピュータにはできないこと、人間だからこそできることに集中し、そして新たな価値を生み出してほしいと思います。4月から、大学で、本格的に学問の世界に入っていき皆さんも多いことでしょう。今まで自分が知らなかった世界を知り、より多くの視点を持ち、そこで感じた疑問を自ら探究していく姿勢、これこそが、

KU（光陵ユニバース）で培った探究心であると考えます。

また、学び続けることには、もうひとつの意味があります。人生 100 年ともいわれる時代、人として豊かな人生をどう生きるかが問われている時代でもあります。文化、芸術、スポーツなど、生涯にわたって、様々なことを学ぶことで、自らの成長を感じ、それを楽しめるようになってほしい。特に若い時代に学んだことは、生涯にわたって皆さんの支えとなるでしょう。好奇心のアンテナを高く立て、様々な出会いに感謝し、多くのことを学んでいてほしい、

そして、幸せな豊かな人生を歩んでいてほしいと思っています。

3つめは、想像力です。今、自分の目の前にいる人、自分の横にいる人がどういう状況なのか、どんな思いを持っているのか、何に困っているのかに思いを寄せる力、思いを届けること、思いやる力を身につけてほしいと思います。また、自分のとった行動、自分が発した言葉が、相手にどんな影響、どんな変化をもたらすのか、想像できる力を身につけてほしいと思っています。まわりの人に合わせるということではありません。自分も、周りの人も、同じ人として大切にしてほしいのです。人は一人ではなにもできません。自分を支えてくれる人を大切にすること、感謝の気持ちを持つことで、お互いに居心地のいい集団を構成してこそ、理念を達成することができるのだと思います。

今、私たちは、新型コロナウイルスという大きな危機に直面しています。英知を結集し、皆でこれを乗り越え、平和で幸せな社会にしていかなければなりません。

「心やさしき社会のリーダー」として、光陵高校で学んだ3年間に、自信と誇りを持って、幸せな人生を歩んでいてください。

卒業、おめでとう。